

第6回 北海道 MIST 研究会開催報告

当番幹事 猪川 輪哉
(豊岡中央病院整形外科、旭川市)

去る10月6日札幌 TKP ガーデンシティで開催いたしました。1ヶ月前に大地震があり開催が危ぶまれ、さらに台風が接近している中でしたが、30名以上の参加が有り、盛会のうちに終えることができました。ご協力頂きました会員諸氏、協賛の旭化成の皆様、器械展示を頂いた諸社に深謝申し上げます。

一般演題は過去最多の12演題が集まりました。いずれも興味深い内容で、本会の特徴である、学閥の垣根を越えた自由闊達な意見交換がなされました。

また、ケースディスカッションのセッションでは、関西医大の斎藤教授、岩手医大の村上准教授をお招きして、北海道から小谷、猪川が加わり成人脊柱変形の諸問題についてディスカッションがなされました(座長:渡辺吾一先生)。固定範囲の決定(UIV, LIV)、隣接障害、術式決定のストラテジーについて、活発に討議されました。また、成人脊柱変形のみならず、椎体骨折後の遺残変形や、治療法に困る難症例についても討議されました。このセッションでは初めての試みとして「アンサーパッド」を用いました。パネラーとフロアーが活発に意見交換でき、今後の活用も期待されました。

特別講演には関西医大の斎藤教授から、「成人脊柱変形矯正術小侵襲化の軌跡」

と言うタイトルでご講演を頂きました。成人脊柱変形を経皮的椎弓根スクリューを用いて治療する際に問題となるのが「カンチレバーテクニックを使えない」ということですが、その弱点を克服する新しいテクニックについて、わかりやすくご講演頂きました。同様に MIST の課題でもある「放射線被爆」をどう減らすか、という問題についても X 線透視を必要としない経皮的椎弓根スクリュー刺入法を解説頂きました。

今後の課題としては、MIST の導入していない施設、医師への技術交流、啓蒙も必要と思われました。

週末にもかかわらずご参会いただき、誠にありがとうございました。

次回は12月15日(土)14:00より第4回北海道 MIST 研究会 CAOS セミナーをホクタケビレッジプラスで開催いたします。特別講演に亀岡市立病院 成田 渉先生にご講演いただきます。奮ってご参加ください。



RAMSA

演者





〔特別講演〕
座長 豊岡中央病院 整形外科 部長 猪川 輪哉 先生
成人脊柱変形矯正術小段変化の軌跡
その実際と成績、そして合併症について
講師 関西医科大学 整形外科学講座 教授

パネルディスカッション

- 1: 保存療法
- 2: 後方矯正位で後方・
- 3: 多相期PLIF / TLIF
- 4: 前方支栓再植 (自前)
- 5: 後方骨切り (短縮も)
- 6: 前後合併矯正手術

